

姉川懷古（榛葉竹庭）

龍攘<sup>りゆうじよう</sup> 虎擲<sup>こてき</sup> 碧川<sup>へきせん</sup>の 頭<sup>ほとり</sup>

聞道<sup>きくならく</sup> 僵屍<sup>きようし</sup> 四周<sup>ししゅう</sup>に 列<sup>つら</sup>なると

大旆<sup>たいはい</sup> 雲<sup>くも</sup>に 變<sup>へん</sup>ず 山月<sup>さんげつ</sup>の 旦<sup>あした</sup>

折戈<sup>せつか</sup> 土<sup>つち</sup>と 化<sup>か</sup>す 野風<sup>やふう</sup>の 秋<sup>あき</sup>

水<sup>みず</sup>は 舊恨<sup>きゆうこん</sup>を 淹<sup>ひた</sup>して 蘆岸<sup>ろがん</sup>に 鳴<sup>な</sup>り

草<sup>くさ</sup>は 新霜<sup>しんそう</sup>を 帯<sup>お</sup>びて 稻疇<sup>とうちゆう</sup>に 臥<sup>ふ</sup>す

唯<sup>ただ</sup> 高碑<sup>こうひ</sup>の 湛露<sup>たんろ</sup>に 濡<sup>うるお</sup>う 有<sup>あ</sup>り

當年<sup>とうねん</sup>の 榮辱<sup>えいじよく</sup> 河流<sup>かりゆう</sup>に 付<sup>ふ</sup>す

龍攘虎擲碧川頭 聞道僵屍列四周  
大旆變雲山月旦 折戈化土野風秋  
水淹舊恨鳴蘆岸 草帶新霜臥稻疇  
唯有高碑濡湛露 當年榮辱付河流

解説 織田・徳川の連合軍二万九千と、浅井・彰倉の一万八千とが近江国・姉川川畔で戦い、緒戦には織田の先鋒を破った浅井・朝倉軍も、遂に衆寡敵せず敗れ去った。なお古戦場は長浜市の東北にあり、今はただ一基の碑石を留めるのみである。

語釈 ※龍攘虎擲Ⅱ両雄の互に戦うたとえ。※僵屍Ⅱたおれた死体。※大旆Ⅱ大旗。※稻疇Ⅱ稻田。※湛露Ⅱしげく置いたつゆ。※榮辱Ⅱ名誉と恥辱。

通釈 曾て青川の辺で両雄が戦い、周辺には多数の屍体が横たわったと聞く。当時翻った大旗は已に雲に変じて暁月が山上に掛かり、折れた刀剣は土と化して秋風が野面を吹いている。水はなお旧恨を浸すが如く芦の岸辺に咽び、草は新霜を帯びて稻田に臥している。ただ高碑のみが繁露に濡い、当時の名誉も恥辱も総て逝く河の流れに随って、遠い過去のものとなってしまうた。